第５学年　音楽科学習指導案

令和２年９月９日(水)第５校時
文京区立駕籠町小学校
第５学年１組　２６名
学級担任　荒木 悠介
指導者　　金田 美奈子

1　題材名　せんりつの重なり方による曲想の変化を感じ取ろう

2　題材の目標

(1) 曲想及びその変化と旋律の重なりや反復などとの関わりについて理解する。

(2) 旋律の重なりや反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴く。

(3) 旋律の重なりや反復に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組み、弦楽合奏に親しむ。

3　指導事項との関連

〔第５学年及び第６学年〕「Ｂ 鑑賞」

ア　鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。

イ　曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。

〔共通事項〕(1)ア

（本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音（旋律）の重なり」「反復」）

4　児童の実態と題材設定の理由

本校では、今年度新型コロナウィルス感染拡大を受けて年間指導計画を入れ替え、１学期は歌唱とリコーダーなど呼気を伴う楽器を扱う器楽の学習の実施を見合わせた。その上で、４月の休校時から、ホームページで歌唱や器楽を中心とした学習内容を提示し、「家庭学習カード」を配布することで家庭学習を習慣付けた。６月の学校再開後は、「知識」の習得、「思考力、判断力、表現力」の育成、「学びに向かう力、人間性」の涵養は学校で、「技能」の習熟は引き続き家庭で学習するようにしている。

第５学年の児童は、音楽の学習に自ら取り組もうとする児童が多く、特に音楽づくりにおいて新しい表現をつくる活動を好んでいる。今年度の１学期の学習としては、６月に鑑賞、７月に器楽の題材を設定した。

鑑賞では、中止となった区オーケストラ鑑賞教室の代替えとして曲想の変化と音楽の構造との関わりを理解し、「お気に入り」の１曲について紹介文を書くＡプログラムと、「交響曲第５番『運命』第１楽章」（ベートーベン作曲）を指揮者の違いによる演奏の工夫について聴き比べるＢプログラムを設定した。この学習における児童の二つの紹介文から、「曲想及びその変化と旋律の特徴、強弱や速度、呼びかけとこたえとの関わりを手掛かりとして書くことはできるが、パートの役割や音の重

なり、音楽の縦と横との関係を手掛かりにして記述する児童が少ない」という実態が見えてきた。

そこで、７月の器楽題材「いろいろな音色を感じ取ろう」では、教材として「リボンのおどり」を取り上げ、個人でパートの役割について考えたりパートの重ね方を工夫したりする活動を設定した。２学期当初に実施したまとめの時間では、それらを６名の児童が発表し、演奏者と聴き手に分かれてパートの重ね方について批評し合う活動を実施した。この中でパートの数の増減による重ね方のよさや面白さについて交流することができた。

以上を踏まえて本題材では、「アイネ クライネ ナハトムジーク　第１楽章」（モーツァルト作曲）を教材として取り上げる。この曲の第１主題は、「全員で同じ旋律を演奏する」「主な旋律と伴奏を重ねて演奏する」「互いに呼びかけ合うように演奏する」という三つの旋律の重なり方で構成されており、比較的分かりやすい。そこで始めに主題提示部を聴き、聴き取ったことや感じ取ったことを共有した後、第１主題をくり返し聴き、三つの旋律の重なり方の特徴や曲想の違いについて知覚・感受を深める時間を設定する。次に、指揮をしながら楽曲全体を聴いたり映像資料を見ながら聴いたりして、曲想及びその変化と音楽の構造との関係をさらに聴き深め、自分の考えを学習カードや紹介文にまとめる。このような学習を通して、曲想とその変化と音楽の構造との関わりを理解し、曲や演奏のよさなどを見いだしながら、音楽を全体にわたって味わって聴く喜びを感じ取ることができるようにしたいと考える。

5　教材と使用音源

(1) 教材「アイネ クライネ ナハトムジーク 第１楽章」（モーツァルト作曲）

この曲は、モーツァルトが 1787 年の秋に作曲されたものであるといわれている。楽器編成は、第１・２バイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバスの５種類の弦楽合奏の形をとっているが、実際にはチェロとコントラバスが１オクターブ違いのユニゾンで演奏するため、スコア上では４声で書かれている。

第１楽章は、アレグロ、ト長調、四分の四拍子の快活な行進曲風な曲想をもったソナタ形式で、主題提示部（第１主題・経過句・第２主題・終結部・小結尾）、展開部、主題再現部、結尾部（コーダ）という構成である。

第１主題は、ト長調の全ての楽器による斉奏から始まり、第１バイオリンの主旋律を他のパートが和音を刻むような伴奏で支える。その後、バイオリンの２パートとビオラ、チェロ、コントラバスが呼びかけ合うように音を重ね、終わりは同じリズムで音を重ねる。経過句は２小節ずつの反復する旋律のフレーズで構成されニ長調に転調する。

第２主題は、バイオリン２パートのオクターブによる斉奏に続き、バイオリンの旋律と同じリズムでビオラ、チェロ、コントラバスの旋律が重なり、２回目の主旋律は、第２バイオリンから第１バイオリンに移り変わっている。

終結部は、同音反復が続く推移主題が軽く柔らかい旋律と力強い旋律による呼びかけとこたえで構成され、小結尾は斉奏とカデンツで構成されている。

展開部は、ニ長調の第１主題の前半部分で始まり、第２主題後の推移主題が短調を交えて転調し、全部の楽器による斉奏からバイオリンの２パートのオクターブによる斉奏、そして最後にト長調に戻り再現部となる。

再現部は第１主題、第２主題ともト長調で、結尾部（コーダ）は第１主題の動機を活用し

たカデンツを反復し、力強く結ばれている。

(2) 使用音源

カール・ベーム指揮：ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団（POCG-2643）

「ベーム／モーツァルト・交響曲集２」（DVD　ｸﾞﾗﾓﾌｫﾝ）

6　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 曲想及びその変化と旋律の重なりや反復について理解している。	思 旋律の重なりや反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。	態 旋律の重なりや反復に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

7　題材の学習指導計画（全２時間）

時	○主な学習内容　　・主な学習活動	☆教師の支援　□評価規準　（評価方法）
＜ねらい＞旋律の重なりや反復に興味・関心をもち、学習の見通しをもつ。		
1 本 時	○楽曲の聴取 ・「アイネ クライネ ナハトムジーク　第１楽章」の主題提示部を聴く。 ・聴き取ったことや感じ取ったことを学習カードに書く。 ・旋律の特徴や音楽の仕組み、曲想について感じたことを交流する。 ○演奏形態の確認 ・異なる音域の弦楽器で合奏していることを映像で確認する。 ○第１主題の旋律の聴取 ・第１主題のバイオリンの旋律を口ずさみながら聴く。 ・旋律の重なり方が変わったところで手を挙げる。 ・旋律の重なり方を、手の動きや図形楽譜で表す。	☆拍の流れを感じながら能動的に聴くことができるよう、４拍子の指揮をしたり主旋律を手の動きで表したりしながら聴く活動を取り入れる。 ☆旋律の特徴や音楽の仕組み、曲想についての考えや既習事項を共有できるような板書を工夫する。 ☆この曲の楽器編成を確認するために、映像資料で第１主題までを見ながら聴く活動を準備する。 ☆旋律や旋律のリズムが反復されていることに気付くことができるように、旋律を口ずさむ活動を設定する。 ☆３種類の重なり方で構成されていることを捉えることができるよう、旋律の重なり方が変わった時に挙手をする活動を設定する。

	・３種類の旋律の重なり方について、聴き取ったことや感じ取ったことを学習カードにまとめる。 〇主題提示部の聴取 ・第１主題でまとめた３種類の旋律の重なり方を踏まえて、主題提示部を聴く。 〇学習の振り返り ・旋律の重なり方や反復について考えたことや、友達の考えに共感したことなどを記述する。	☆３種類の重なり方についてまとめることができるような学習カードを準備する。 態 旋律の重なりや反復に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 （発言内容・学習カード）
＜ねらい＞曲想及びその変化と旋律の重なりや反復などとの関わりを知覚・感受し、理解する。		
2	〇めあての確認 〇旋律の重なりや反復の知覚・感受 ・旋律の反復や旋律の重なり方に気を付けて「はじめ」（主題提示部）「なか」（展開部）「おわり」（主題再現部、コーダ）を聴く。 ・旋律の重なり方の違いによる曲想の変化について考えを交流する。 〇曲想及びその変化と旋律の重なりや反復などとの関わりの理解 ・映像資料を見ながら曲全体を聴き、旋律の重なりや反復について触れながら、紹介文を書く。 ・ペアで紹介文を基に、作品の特徴や演奏のよさを話し合う。 〇学習の振り返り ・自己評価をする。	☆指揮をしたり図形楽譜を書いたりしながら聴くなど、能動的に聴くことができる方法を工夫しながら聴くよう助言する。 ☆前時に学習した旋律の重なり方を手掛かりとして、それぞれの部分の曲想について自分の言葉で表現するよう助言する。 思 旋律の重なりや反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。（発言内容・学習カード） ☆映像資料を見て聴く際は、曲全体を見通しながら、旋律の重なりや反復についてまとめ、作品の特徴や演奏のよさについても自分の考えをもって判断しながら聴き、紹介文に書くよう促す。 ☆距離を空け、口が向かないように工夫して話し合うよう助言する。 知 曲想及びその変化と旋律の重なりや反復について理解している。 （発言内容・学習カード）

8　本時の学習(１／２時間)

(1)ねらい　旋律の重なりや反復に興味・関心をもち、学習の見通しをもつ。

(2)学習の展開

○学習内容　　・学習活動	☆教師の支援　□評価規準　（評価方法）
○楽曲の聴取 ・「アイネ クライネ ナハトムジーク　第１楽章」の主題提示部を聴く。 ・聴き取ったことや感じ取ったことを学習カードに書く。 ・旋律の特徴や音楽の仕組み、曲想について感じたことを交流する。	☆拍の流れを感じながら能動的に聴くことができるよう、４拍子の指揮をしたり主旋律を手の動きで表したりしながら聴く活動を取り入れる。 ☆旋律の特徴や音楽の仕組み、曲想についての考えや既習事項を共有できるような板書を工夫する。
○めあての確認 せんりつの重なり方や音楽の仕組みと曲想との関わりを感じ取ろう。	
○演奏形態の確認 ・異なる音域の弦楽器で合奏していることを映像で確認する。	☆この曲の楽器編成を確認するために、映像資料で第１主題までを見ながら聴く活動を準備する。
○第１主題の旋律の聴取 ・第１主題のバイオリンの旋律を口ずさみながら聴く。 ・旋律の重なり方が変わったところで手を挙げる。 ・旋律の重なり方を、手の動きや図形楽譜で表す。 ・３種類の旋律の重なり方について、聴き取ったことや感じ取ったことを学習カードにまとめる。	☆旋律や旋律のリズムが反復されていることに気付くことができるように、旋律を口ずさむ活動を設定する。 ☆３種類の重なり方で構成されていることを捉えることができるよう、旋律の重なり方が変わった時に挙手をする活動を設定する。 ☆３種類の重なり方についてまとめることができるような学習カードを準備する。
○主題提示部の聴取 ・第１主題でまとめた３種類の旋律の重なり方を踏まえて、主題提示部を聴く。	態 旋律の重なりや反復に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 （発言内容・学習カード）
○学習の振り返り ・旋律の重なり方や反復について考えたことや、友達の考えに共感したことなどを記述する。	